

1 道立試験研究機関の沿革

- ・ 明治 9 年、畜産試験場の前身である開拓使牧牛場を開設。昭和 25 年、国立試験場と分離し、道立農業試験場設置。
- ・ 明治 21 年、鮭を中心とした放流孵化技術を開発する「千歳中央孵化場」を開設。昭和 27 年、道立水産孵化場設置。
- ・ 明治 34 年、北海道の豊富な水産物の捕獲、加工を支援する「水産試験場」を開設。昭和 25 年、国立試験場と分離し、道立水産試験場設置。
- ・ 大正 11 年、北海道の工業化を担う「工業試験場」を開設。昭和 24 年、道立工業試験場設置。
- ・ 昭和 24 年、公衆衛生を担う「衛生研究所」、木材工業の研究を担う「林産試験場」を開設。
- ・ 昭和 25 年、鉱物資源や温泉の採掘のための「地下資源調査所」が開設。平成 11 年、地質研究所に改称。
- ・ 昭和 30 年、北海道の厳しい住環境に対応した住宅の研究を担う「寒地建築研究所」を開設。平成 14 年、北方建築総合研究所に改称。
- ・ 昭和 32 年、林業の振興を図るため「林業試験場」を開設。
- ・ 昭和 45 年、工業化に伴う公害などに対応するため「公害防止研究所」を開設。平成 3 年、環境科学研究センターに改称。
- ・ 昭和 46 年、北海道の歴史の研究を担う「開拓記念館」を開設。
- ・ 昭和 61 年、原子力発電所の開設に環境モニタリングや、農業・水産の試験研究を担う「原子力環境センター」を開設。
- ・ 平成 4 年、北海道の有する農畜産物等を活用した加工食品の研究を担うため、「工業試験場」から「食品部」を移管し、「食品加工研究センター」を開設。
- ・ 平成 6 年、北海道の先住民族であるアイヌ民族の研究を担う「アイヌ民族文化研究センター」を開設。